

## 国立大学法人東北大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

### 1 全体評価

東北大学は、開学以来の「研究第一主義」の伝統、「門戸開放」の理念及び「実学尊重」の精神を基に、数々の教育研究の成果を挙げてきた実績を踏まえ、これらの伝統、理念等を積極的に踏襲し、独創的な研究を基盤として高等教育を推進する総合大学として世界をリードする教育・研究拠点を目指している。第2期中期目標期間においては、教育目標・教育理念－「指導的人材の養成」、使命－「研究センター大学」、基本方針－「世界と地域に開かれた世界リーディング・ユニバーシティ」を目標としている。

この目標達成に向けて総長のリーダーシップの下、大学の将来像を提示し、それを指して大学の全構成員が一体となって歩みを進めるための指針として、全学横断的な取組を示した「里見ビジョン」を策定・公表するとともに、教育実践に関する調査・研究・開発・実施を一体的に担う「高度教養教育・学生支援機構」を平成26年4月に設置することとしているほか、引き続き東日本大震災からの復興・地域再生に総合的に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

#### (戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、次のような戦略的・意欲的な計画を定めて、積極的に取り組んでいる。

- 東日本大震災による被災からの復興・地域再生を先導する研究の推進や復旧・復興支援の取組推進を目指した計画を定めており、平成25年度においては、「災害復興新生研究機構」におけるプロジェクト活動を着実に遂行し、その活動状況を海外にも広く発信するとともに、各部局においても震災関連の研究の推進や部局独自の災害復興プロジェクトを募集・採択するなど復興に資する研究を支援しているほか、研究成果を活用し国や地方自治体等の防災・復興計画策定等に貢献している。
- スピントロニクス分野において世界トップレベルの博士人材養成及び最先端の国際共同研究を推進する国際共同大学院の整備を目指した計画（平成25年度に中期計画を変更）を定めており、平成25年度においては、海外有力大学との国際共同大学院設置に向けた準備協議を開始しているほか、平成26年度に世界トップレベルの外国人教員を招へいすることを決定している。

#### (機能強化に向けた取組状況)

全学的観点での指針として策定した「里見ビジョン」において、「教育」、「研究」、「震災復興」、「産学連携」、「社会連携」、「キャンパス環境」、「大学経営」の7つのビジョンの下に14の重点戦略を設定し事業を展開している。また、東北大学の強みであるスピントロニクス分野において、海外の大学等から世界最高水準の研究者を招へいする等、海外の大学等との協働により、世界トップレベルの博士人材を養成する国際共同大学院を整備するための検討を開始しているほか、年俸制導入に向けた検討や、ジョイント・アポイントメント制度の実施ガイドラインを制定している。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「総長裁量経費」の方針・採択基準として、中期目標・中期計画との強い関連性、及び各部局からの要求事項について、原則総事業費の半分程度を部局負担とするマッチングファンド形式を実施するとともに、「総長裁量経費」の新たな採択区分として、「東北大学グローバルビジョン（里見ビジョン・部局ビジョン）」を設け、大学の国際プレゼンスの一層の向上を図る取組である「「知の館」整備事業」を採択するなど、戦略的・重点的な配分を行っている。
- 内部監査結果の伝達方法の多重化として、監査結果を部局に伝達する方法を変更し、監査終了後直ちに監査結果を部局管理者の出席の下、ディスカッションを行い指摘事項の内容や改善方法のアドバイスなどを行うことにより、速やかな改善を図るとともに、東北地区における各国立大学の内部監査担当者の連携を醸成することを目的として、「東北地区内部監査実務担当者連絡会議」を開催し、各大学における内部監査業務の実例紹介などを行っている。

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 大学院専門職学位課程について、学生収容定員の充足率が 90 %を満たさなかったことから、今後、速やかに、定員の充足に向けた取組が望まれる。

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて**順調**に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 12 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

#### (2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、)

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて**順調**に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

### **(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 全国の大学に先駆けて、地震予知、地球環境問題、ナノテク、移植医療等をはじめとする社会の関心の高い話題を取り上げ、研究成果を広く社会に発信する場として開催している「サイエンスカフェ」について、平成 25 年度は、「第 100 回スペシャル」を開催しているほか、ケーブルテレビでの放送に加え、動画配信も行っており、大学の研究成果を広く一般に発信する取組となっている。

#### **【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

### **(4) その他業務運営に関する重要目標**

(①施設設備の整備・活用等、②環境保全・安全管理、③法令遵守  
④情報基盤等の整備・活用、⑤大学支援者等との連携強化)

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 卒業生、在校生、現旧の教職員を会員とする校友会組織である「萩友会」との連携強化を図りながら、ホームカミングデーの開催や大学と校友をオンラインで結ぶ「東北大学萩友会ネットワーク」の整備、大学の校友歌「緑の丘」を制定するなどの取組により、大学と卒業生、在校生、教職員等のネットワークを強化しており、萩友会の会員数も着実に増加（対前年度比 19%増）させている。

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 複合機による学生の個人情報外部から閲覧できる状態にあった事例や、病院職員が研究のために作成した患者の個人情報を紛失する事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。
- 会計検査院から指摘を受けた災害復旧事業により購入するなどした研究設備の地震対策については、策定した計画に従って着実に実施すること。

#### **【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 15 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 24 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

## II. 教育研究の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 平成 26 年 4 月に「高度教養教育・学生支援機構」を設置することとし、教育実践に関する調査・研究・開発・実施を一体的に担う新たな全学的教育・学生支援体制を構築するとともに、入学前から卒業・修了後に至る高度な教育と学生支援を実践することで、グローバルリーダーを育成するための教育改革を推進している。
- 平成 26 年度入学予定者を対象に「東北大学グローバルリーダー育成プログラム」の一環として、カリフォルニア大学リバーサイド校における 2 週間のプログラム（同校教員の講義や同校学生との交流、課外活動等）に参加させることにより、語学学習への意欲を高めつつ、異文化理解を促進することを目的とした「入学前海外研修～ High School Bridging Program」を開始している。
- ノーベル賞受賞者等、世界第一級の研究者を世界中から招へいし、中長期間滞在させ、人類共通の課題について大学の若手研究者等と日常的に議論できる場を創出することにより、東北大学発の先駆的研究領域の創生を目指すとともに、将来のグローバルリーダーを養成するプロジェクトとして、訪問滞在型研究センター「東北大学 知のフォーラム」を設置し、平成 25 年度には、パイロットプログラムとして「国際リニアコライダーが開く新理論『素粒子と宇宙－ヒッグス粒子を超えて－』」を開催し、ノーベル賞受賞者をはじめとする世界の著名研究者の参加を得ている。
- 国際高等研究教育機構内に、先端融合シナジー研究所と学際科学国際高等研究センターを統合し、「学際科学フロンティア研究所」を設置するとともに、国内外から優秀な若手研究者を採用・育成する仕組みを整備するなど、全学的に減少している若手研究者の増員（国際公募による准教授 1 名、助教 10 名及び特別研究員 9 名）を図っているほか、これらの若手研究者が中心となり、国際高等研究教育院生を先導し、8 回の研究セミナーや 3 回のコロキウムを実施している。

### **平成24年度補正予算（第1号）関係**

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 産学共同の研究開発を推進するための学内体制については、総務、財務、研究担当の各理事で構成される産学共同・事業化推進委員会を設置し、全学的な体制を構築するとともに、同委員会に外部有識者を複数招へいし、学内外の知見を結集する体制を構築している。
- 事業化推進型共同研究について、学内公募の結果、5 件を採択し、約 3 億 3,600 万円措置するとともに、共同研究経費として 1 億 5,000 万円を超える民間資金を獲得した上で、研究に着手している。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載事項が「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

**共同利用・共同研究拠点関係**

- 流体科学研究所では、国際シンポジウムを主催し、公募共同研究の成果を世界発信するため、公募共同研究の全参加者が英語により研究成果を報告しており、750名を超える国内外の研究者が参加している。また、学術の進展や震災復興を含めた社会の要請に対応するため、組織の見直しを行い、未到エネルギー研究センターや次世代流動実験研究センター等を設置している。
- 加齢医学研究所では、加齢メカニズムの解明等に係る共同研究を実施し、子供及び成人脳 MR 画像データベースを対象に、脳局所灰白質量、拡散テンソル画像、機能的 MRI などのデータを用いた解析を行い、脳の構造と機能に関する巨視的ネットワーク構造を明らかにし、脳科学、数理科学、情報科学が融合した新学術領域の創生の足がかりを得ているほか、「難治性癌の克服にむけた展開」に関して、HDAC/PI3K 二重阻害剤として開発されたデプシペプチド新規類縁体を、PCT 特許出願するなどの成果を上げている。
- サイバーサイエンスセンターでは、革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ (HPCI) と連携し、研究課題グループには無償で施設利用ができるよう整備しているほか、経費助成制度を開始し、国際会議発表旅費、論文掲載料、研究集会の会場利用料を支援している。さらに、ネットワーク型拠点の特徴を生かした複数拠点型の共同研究を推奨・拡大することを目的とした「ネットワーク型学際研究シンポジウム」を開催している。
- 多元物質科学研究所では、ネットワーク型拠点と連動する5附置研究所間アライアンス事業「ナノとマイクロをつなぐ物質・デバイス・システム創製戦略プロジェクト」において、アライアンス若手研究交流会、アライアンス技術支援シンポジウムを開催し、大学の枠を越えた若手教員、技術職員の情報交換と支援体制強化を図っている。

**附属病院関係****(教育・研究面)**

- 文部科学省「リサーチマインドを持った総合診療医の養成プログラム」の採択を受け、「コンダクター型総合診療医の養成」の構築を開始し、気仙沼市立本吉病院、石巻市立病院、みちのく総合診療医学センターの3施設を地域教育拠点として、大学と ICT で連結、受講者である医師に対し、専門医療や医療マネジメントに関する専門知識・スキルを、地域教育拠点は実践的臨床トレーニングや円滑な医療マネジメント学習のための OJT (職場研修) を提供することで、地域に居ながら専門医や学位取得などのキャリア形成やスキルアップを可能としている。

**(診療面)**

- 最新心血管撮影装置と高性能手術台を統合したハイブリッド手術システム (部屋面

積 96.950 m<sup>2</sup>) を導入し、心臓血管外科、移植再建内視鏡外科、循環器内科、放射線診断科等の診療科が協働して、外科手術とカテーテル治療を組み合わせた治療（大血管及び末梢血管疾患に対する低侵襲なステントグラフト治療など）を行っている。

**(運営面)**

- 病院収益を確保するため、診療稼働額、病床稼働率、診療単価等の月別・診療科別目標値を設定し、毎月の稼働実績額等の分析・評価に加え、各診療科等から提案された事業計画についてヒアリングを行い、実現性の高い事業を選定・実施し、医薬品の価格交渉及び随時の価格見直し等購入経費の削減に努めているほか、経費率上昇に影響が大きいと思われる医療材料を洗い出し、平成 24 年度との使用実績数の比較など分析を行い、一部の材料で切替え等を含めた検討を行った結果、42 品目について購入単価を削減（対前年度比約 4.3 %）するなど、経費削減に取り組んでいる。